

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070103399
法人名	株式会社はるす
事業所名	グループホームはるすのお家・和歌山
所在地	和歌山県和歌山市福島486-1 (電話 073-480-5670)

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成20年 2月 12日	評価確定日	平成20年3月11日

【情報提供票より】(平成19年12月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年 12月 1日			
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人	
職員数	28 人	常勤 10 人,	非常勤 18 人,	常勤換算 12.6

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900	円

(4)利用者の概要(平成19年12月20日現在)

利用者人数	26 名	男性	10 名	女性	16 名	
要介護1	4 名	要介護2	10 名			
要介護3	7 名	要介護4	5 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82.5 歳	最低	53 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	サンクリニック・下間クリニック・寺下医院・坂本歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3年前に川沿いの静かな住宅街に開設され周辺住宅環境に違和感なく溶け込んだ2階建ての建物に3ユニットが配置されている。ケアスタッフは食事の献立や入浴など画一的な対応に終始する事なく、入居者本人の尊重をモットーとした生活の支援を実践している。ホーム内では入居者が家庭的な環境の中で自由な生活を楽しめるような配慮が見られる。また、演劇鑑賞などの地域資源を活用し、その人に相応しいケアを探求し研鑽を重ねている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価以降の定例のミーティングにおいて、職員各位にその内容を報告し周知を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価について取り組み困難な厳しい現実と向き合いつつも前向きに努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	半年に一度、家族会を兼ねた形で入居者家族を中心に包括支援センター職員等関係者の出席を得て会議を行っている。地域の各種団体関係者の出席は得られ難く、課題として残る。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の協力の度合いはそれぞれに異なるものの、家族の訪問時や家族会を兼ねた運営推進会議で出された相談、苦情、意見等にはその都度対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	近隣住民との対立関係は認められないが、自由に行き来するほどの親和性も感じられない。また各種団体との関わりも未だ積極性を欠いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ユニット毎に人として尊厳ある支援に基いた理念を掲げ屋内に掲示されているが、「地域」という言葉がみられないなど地域密着サービスとしての理念というにはもう一歩の印象は否めない。	○	地域密着型サービスとしての根本に立ち返った運営理念を職員・経営者で協力して再構築するのが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニット毎に掲示されている理念の大意については職員間で共有できている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民との随時の挨拶は欠かさず、また自治会行事としての側溝清掃への参加などの取り組みはみられるが地元の人々との交流というところまでには至っていない。	○	地域の各種団体代表との連絡を密に取り地域とホームの相互理解を深められる取り組みを期待したい。ホーム側は地域の歴史を積極的に学び地域に密着した社会資源を発掘すると同時にホームの事を地域に知ってもらうよう繋げるのが望ましい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価後に定例のミーティングで内容を職員に周知し、意見の吸い上げ・まとめを行いケアに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	半年に一度の頻度で、家族会を兼ねた形で入居者家族を中心に包括支援センター職員等関係者等の出席で会議を行っている。市や地域の各種団体関係者の出席は得られ難く、課題として残る。	○	地域の各種団体に加えて、市の支所、警察、消防などの機関関係者との連携を深める場として活用されるよう積極的なアプローチを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政手続関係で市担当者が行き来する中で相談して指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしの様子や金銭管理の資料など、入居者家族に対して毎月便りを発送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム側は相談苦情の受付は随時行っており対応もその都度行うとしている。また、運営推進会議が家族会を兼ねた形で行われており、出された意見、要望にはその都度対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職による職員の入れ替わりが多く見られるが、入居者ごとの担当制ではないので影響は少なく他の職員が随時カバーする事で入居者へのダメージ緩和に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員の着任直後は1週間職員が専属で付いて指導し、それ以降は業務を通して研修としている。法人内外の研修参加については人手不足もあり、不十分である。	○	組織体制や業務体制を見直した上で、職員が研修参加の機会を得られるような余裕を産み出す事が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し交流を図っている。また同一法人内の他のグループホームとの交流も模索中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	介護サービスの導入部については介護の基本に沿った支援を行うことで馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員各位はそれぞれ入居者の情緒に寄り添った対応を心がけている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の個別記録によって一人ひとりの意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット毎に職員が協力し、それぞれの意見に基づいた介護計画に沿ってケアに当たる態勢をとっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1度は定例の見直しを行い、月に1度のミーティングで随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所が持つ多機能性の理解が不十分であった。	○	制度面に囚われない広い意味での多機能性について再度認識し、ホームが築いてきた機能そのものを洗い直した上で独自の機能を見出し、入居者のケアにつなげられるよう期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望を尊重している。週に1度協力医療機関の医師による往診が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2名の看取りの実績を有している。全面的なケアから家族に対する側面支援に至るまで柔軟に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者各人に合わせた声量を心がけ、プライバシー保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	観劇等の楽しみごとや入浴等の日常生活まで、一人ひとりに合わせその人らしい暮らしが出来るよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸・コップ・茶碗は入居者各人の使い慣れた物を使用している。入居者と職員は共に食事を摂り、各ユニットはそれぞれ別メニューの食事を摂っているなど、ホーム内において画一的ではない支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の頻度や入浴日・時間は入居者が自由に選べる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	共用スペースでおしゃべりをしたり、TVを観たり、自室で編み物をしたりと入居者それぞれで楽しみごとを持ち過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	観劇、外食、買い物や散歩などの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	警察の指導で外2箇所の門戸は施錠しているが、ホーム内の扉の施錠は最小限に止めており、入居者は各ユニット間や建物の外回りを自由に行き来している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、行事と称して火災を想定した避難訓練を行っているが、ユニットごとに区切って職員が避難誘導確認を行っており、現実的に対処できるかどうか不安が残る。また物資の備蓄を行っていない。	○	急な災害時は形式通りの避難誘導は不可能と考えられるが、3ユニットの職員はそれぞれ別々に形式的に避難誘導確認などを行っているので、いざという時に合同で協力し合って避難誘導確認が行えるよう期待したい。また最低3日分の物資備蓄が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分摂取量に配慮された献立に基づいて食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは職員の配慮の行き届いた声量と居心地よく過ごせるよう違和感のないインテリアと雰囲気作りに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はカーテンやベッド、タンスなど家具類は入居者それぞれのものを持ち込み使用しており、部屋ごとの個性を感じ取れた。		